

業界

ザロソ

ショットなどを望むカップルもいます。ロケーション、当日以外の新たなニーズとして注目されています。」
よりブライベートになるだけに、新郎新婦のリクエストも過激になるケースもあるようだ。

6月にパリで初のウエディング 現地オーガナイザーと交流



KAORUKO氏

リッツカールトンパリ内に、インショップを展開しているKAORUKO氏。6月に、初めてパリでのウエディングを手掛けた。
「結婚するカップルは、オーガナイザーに依頼します。オーガナイザーが

さらにジャンルごとに専門家を手配するわけですが、今回ジャカルタのフラワーデザイナーから指名をされて、会場のデザインやフラワーの作り込みを手がけることになりました。」
人数は200名。それでも、少人数であり、パリでは1000名規模の披露宴が通常だという。

ガーデンで開催された今回のパーティ。イチからテントを作っていく、照明設備なども設営。こうした設営には専門の職人が担当することになる。それだけでも、コスト負担は膨れ上がっていくわけだが、パリのウエディングは富裕層が多いため、こうした規模のものも決して珍しくない。

「パリならではのコーディネートとして、新郎新婦のテーブルの背後にパーティションを設置していきます。そこに白い布を施し、金色の字で列席者の感謝の言葉を記します。」